

今月の重点活動

■長良なずな普及会 んぎふ清流GAP説明会開催

4月13日に、長良なずな普及会の会員を参集して、ぎふ清流GAP評価制度の説明会を高桑コミュニティー会館において開催した。

長良なずな普及会は、有機農業を実践する13名が構成員となって生産・販売活動を行う生産者組織で、制度について生産者に理解を深めてもらうことを目的に開催した。

当日は、ぎふ清流GAP推進センターから制度の仕組みや今後のスケジュールについて、農林事務所からGAPの考え方について説明した。農林事務所では、自己点検の実施やマニュアルに基づいた生産管理の支援を行っていく。(地域支援第一係・藤田 文彦)



【清流GAP説明会の様子】

■ナシ 溶液受粉実施

本巣市のナシ園で、4月10日から赤梨系の早生品種「幸水」の人工授粉作業が実施された。本年度の「幸水」の開花期は、晴天が続く、気温も高く開花が揃ったため、授粉作業に最適な天候となった。

農林事務所では、新技術導入普及支援事業(県単)を活用した溶液受粉の現地試験を実施しており、慣行受粉(電池式花粉交配機・梵天)と比較した受粉作業時の疲労度や作業時間の調査を本巣市梨振興会会長の園地において実施した。受粉作業を行った会長は「溶液受粉は花弁に残る水滴が目印となり、しっかりかけたという安心感がある」と好評だった。

今後、結実率や果実品質を調査し、会員に調査結果等の情報を提供していく。

(園芸産地支援第二係・杉浦 真由)



【ナシ溶液受粉作業の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ながもりファーム 農事組合法人ながもりファーム設立総会開催

4月18日に、農事組合法人ながもりファームの設立総会がJAぎふ南長森支店において開催された。総会に提案された議案が全て承認され、13名でスタートすることとなった。

代表理事から、「多面的機能支払交付金を活用した活動をする中で、管理が困難となった農地や傷んだ用水を補修する作業を通して、地域の農地を守っていかなければという思いを仲間と共有し、農地整備も視野に入れた営農活動を行っていききたい」と抱負が語られた。

農林事務所では、今後の組織育成に向けて経営改善等の提案を行っていく。(地域支援第一係・山田 和彦)



【組員集合写真】

■女性農業経営アドバイザー 令和4年度女性農業経営アドバイザー認定証交付式開催

4月20日に、岐阜地域の女性農業経営アドバイザー認定証交付式をOKBふれあい会館会議室において開催し、新たに認定された女性農業者1名へ土屋農林事務所長から認定書を交付した。

女性農業経営アドバイザーは、県知事から認定された、経営改善や地域社会への参画に意欲的

に取り組む女性農業者のことで、政策方針決定の場への参画や次世代女性リーダーの育成など、県内で84名が農村地域の振興に取り組んでいる。

交付式では、今年度の新規認定者から「他の会員とともに頑張っていきたい」との抱負が語られた。

管内では、新規認定者を含む20名の管内女性農業経営アドバイザーが活動しており、農林事務所では、女性農業経営アドバイザーの資質向上や次代の女性農業者リーダー育成など、組織活動を支援していく。
(園芸産地支援第一係・植松 晃弘)



【交付式の様子】

■指導農業士 令和4年度総会開催

4月21日に、岐阜地域指導農業士連絡協議会総会が、OKBふれあい会館会議室において11名の出席のもと開催された。総会では、事業計画や収支予算等、議案は全て承認され、新規役員も選出された。コロナ禍により書面での総会が続き、今回2年振りに会員の集まる機会となった。

1名の新任者の紹介があった後、出席者全員が改めて自己紹介を行った。会員から、対面での活動を少しずつ再開してはどうかという意見も多く出た。

農林事務所では新型コロナウイルス感染対策を実施した上で、活動再開を支援していく。

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 JAぎふ営農担当者へのウェブ研修会を開催

4月11日に、JAぎふ営農担当者を対象とした水稲青空教室研修会がJAぎふ本店において開催された。この研修会は、JAの営農担当者が現地や研修会で農家指導ができるよう、水稲作付け前にJAぎふが毎年開催している。今年も新型コロナ対策からウェブ形式での開催となったが、約40名が参加した。

農林事務所が研修会講師を務め、水稲栽培管理上の留意点やスクミリンゴガイ対策などについて解説した。今後はJA営農担当者と連携しながら、令和4年産米の安定生産に向けて、栽培管理指導や生育調査を実施していく。
(地域支援第三係・松本 政行)



【ウェブ研修会の様子】

■小麦 赤かび病防除でもスマート農業機械が活躍

岐阜地域では農業法人や大規模農家が生産調整水田を利用して、小麦「タマイズミ」を約420ha栽培している。令和4年産は冬の厳しい寒さで一時的に生育が遅れたものの、3月以降の高温により生育が回復し、例年より数日早い4月10日～15日の出穂となった。農林事務所では出穂後の赤かび病防除について指導を行っており、4月下旬に防除が実施された。

近年は、ドローンや直進アシスト機能付きブームスプレーヤーなどスマート農業機械を活用する生産者も増え、作業時間の短縮や作業労力の軽減が図られるようになってきた。

今後、農林事務所では赤かび病の発病調査や収穫時期の指導を行い安全で良質な小麦が生産できるよう指導していく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【ドローン防除の様子】